

2025・3

# 柏の景気情報

令和7（2025）年3月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和7年3月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

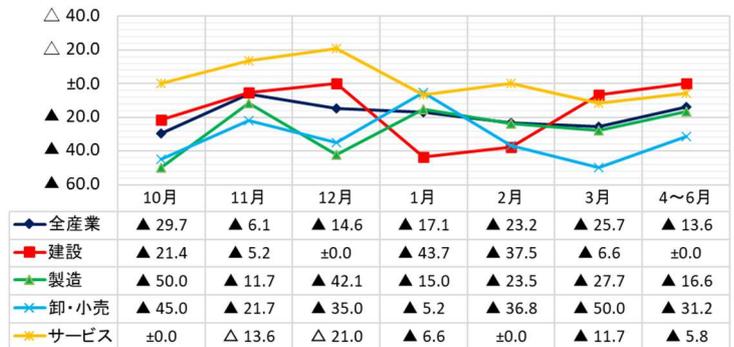
回答期間：令和7年3月19日～令和7年4月3日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数68

各業界、若手の人材確保に苦慮の声。一方で新年度に予想されるコスト上昇への課題は山積み

3月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲25.7（前月水準▲23.2）となりマイナス幅が2.5ポイント拡大した。

各業界、継続するコスト上昇と先行きへの不透明さに不安な声多数。建設業・製造業・サービス業では、材料費、燃料費の上昇に加え、募集をかけるも若手の人手不足は未だ顕在。解消を図るための賃上げで人件費がさらにかさむ厳しい状況。一方で卸・小売業では、商品の値上げにお客の買い控え傾向がみられる。

柏の景気情報・産業別業況DI



## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



「若い社員の働き方改革が定着しつつあり、残業・休日出勤等は難しくなった」（一般土木建築工事）  
 「コロナ明けでもいまだに続く便乗値上により資材の高騰はまだまだ止まらない。加速的なインフレが続き消費者は所得のインフレ速度のアンバランスにこの先の心配をする人が多い」（塗装工事）  
 「材料費、燃料費の上昇によりコスト増は継続しているが、ただし、好転傾向の継続性に不透明な期間はある。大規模地震等への防災意識がさらに高まれば、防災関連事業の投資も期待される」（地質調査）



「今年度に入って人材不足の為、ハロワークだけでなく求人広告等、コストをかけて年間通して募集しているが、職種によっては応募が殆ど無く、困っている。特に営業関連の仕事には高齢者の人の応募は時々あるが、若い人の応募は全くと言っていいほど無い。人材育成には時間がかかるので、若い人材が不可欠だが、今後、応募がないとなれば、ビジネスモデルそのものを変えていかないと会社が成り立たなくなる恐れがある」（自動車・同附属品製造）  
 「エネルギー、素材の上昇・賃金の上昇などでコストアップ要因が多く発生している。アメリカの関税政策で先行きが不透明性が大きくなっている」（一般産業用機械・装置製造）



「食品関連値上げの報道。小売全般買い控えの傾向がみられる」（その他各種商品小売）  
 「人件費、商品原価、配送料といったコストプッシュ型のインフレは継続しており、本年は昨年より多くの製造メーカーが値上げを表明している状態で、世の中の人件費の上昇が追いつかず可処分所得が目減りする中、厳しい経営状態が続いている。社内的には昨年同様の人件費上昇を計画している中、春の異動に伴う補充が進んでいないので、1人当りのコストパフォーマンスを上げる効率改革に進めている。売上は微増するが、利益は昨年を維持する程度でコスト上昇分の吸収は厳しい」（大型小売店）



「降雪や強風などの天候要因により売上が減少。客単価は上昇している。仕入や消耗品価格の高騰に加え賃上げの影響により採算は悪化」（ゴルフ練習場）  
 「金利が上昇している為、買い顧客からの問い合わせが減ってきている。また、資材、人件費、運送費の上昇により建築費が上がっている。全体的に市場動向は良くない」（不動産管理）  
 「サービス業の人手不足はより一層顕著になり、今後の売上げにも影響が出る」（日本料理）  
 「都内の大手塾が柏市に出店攻勢をかけてきたため、従業員の賃金上昇分を新年度の授業料に転嫁できなかった。この数年は資金繰りが厳しくなると予想される」（学習塾）

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲25.7に対し、「CCI-LOBO」が▲19.2で、柏のほうがマイナス幅が6.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業・サービス業である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.7	 ▲ 6.6	 ▲ 27.7	 ▲ 50.0	 ▲ 11.7
CCI-LOBO	 ▲ 19.2	 ▲ 15.6	 ▲ 24.7	 ▲ 23.1	 ▲ 13.9
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 1.5	 ▲ 6.6	 ▲ 16.6	 12.5	 11.7
CCI-LOBO	 ▲ 6.4	 ▲ 4.7	 ▲ 10.6	 ▲ 10.9	 ▲ 2.7
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 27.2	 ▲ 20.0	 ▲ 33.3	 ▲ 31.2	 ▲ 17.6
CCI-LOBO	 ▲ 19.4	 ▲ 13.8	 ▲ 19.8	 ▲ 26.3	 ▲ 19.4
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 72.7	 ▲ 66.6	 ▲ 72.2	 ▲ 81.2	 ▲ 58.8
CCI-LOBO	 ▲ 66.6	 ▲ 70.3	 ▲ 65.2	 ▲ 67.9	 ▲ 64.5
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 18.1	 40.0	 ▲ 5.5	 6.2	 29.4
CCI-LOBO	 22.7	 37.5	 11.5	 17.0	 30.0
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.1	 ▲ 6.6	 ▲ 27.7	 ▲ 6.2	 ▲ 11.7
CCI-LOBO	 ▲ 14.1	 ▲ 6.9	 ▲ 19.6	 ▲ 18.0	 ▲ 13.3

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(3月速報)

調査期間：2025年3月13日～19日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、経営課題は山積も、年度末需要で小幅改善

先行きは、大型連休等への期待から明るい兆し

3月の全産業合計の業況DIは、▲19.2と前月比からプラス1.3ポイント。

小売業では、新生活・新学期需要が追い風となり、改善した。サービス業では、飲食店等で歓送迎会需要の恩恵を受けるも、コスト増や人手不足が足かせとなり、ほぼ横ばいとなった。卸売業では、小売業やサービス業からの引き合い増加を受け、改善した。建設業では、設備投資をはじめ非住居関係の民間工事が持ち直しつつあり、改善した。製造業では、設備投資需要で機械器具関係が持ち直しつつあるも、コスト高止まりでほぼ横ばいとなった。

原材料価格や電気代の高騰などによるコスト増が続いている中、深刻な人手不足

も継続しており、労務費上昇を含めた価格転嫁が十分には進んでいない状況にある。こうした経済課題は依然として山積しているものの、年度末需要の支えにより、中小企業の業況は小幅改善となった。

先行き見通しDIは、▲1.1と今月比からプラス3.1ポイント

長期化する消費マインドの低迷、コスト増、人手不足など、中小企業を取り巻く環境は引き続き厳しい。トランプ政権の関税政策による、先行きの不透明さを懸念する声も継続して聞かれた。

一方、好調なインバウンド需要、堅調に推移する歓送迎会需要、ならびに大型連休への期待から、先行きは明るい兆しが見える。

#### 【建設業】

「現状では企業の設備投資意欲が高く、受注は増加している。一方、トランプ政権の関税政策等で先行きの不

透明感が強まっており、今後は設備投資意欲が冷え込んでしまうことを危惧している」

（一般工事業）  
「公共工事で一服感が見られるため、業況は芳しくない」（電気通信工事業）

#### 【製造業】

「原材料価格の高騰や賃上げ原資確保のため、業務用製品は積極的に価格転嫁をしているが、家庭用製品では販売量の減少につながることを怖く、価格を据え置いている」（調味料製造業）

「大手企業では賃上げが進むが、同水準の賃上げを自社で行うことは不可能であり、人材確保がより難しい状況になっている」（産業用電気機械製造業）

#### 【卸売業】

「原材料・エネルギー価格の高騰は継続しているが、生産性向上によって採算は改善している。今後も従業員のモチベーション向上を目的とした賃上げ、ならびに教育・研修といった人材への投資を行

い、さらなる生産性向上につなげていきたい」（建築材料卸売業）

「近年の猛暑のほか、今月は季節外れの降雪があるなど、異常気象で青果の相場が安定しておらず、今後の見通しも立てられない」（農畜産水産物卸売業）

#### 【小売業】

「この時期は新学期の特需があるが、自社で取引している高校の入学人数が少子化で前年より1〜2割ほど減少した。新入生の数が売上に直結するため、以前ほどの売上増加は見込めない」（スポーツ用品小売業）

「近年の猛暑のほか、今月は季節外れの降雪があるなど、異常気象で青果の相場が安定しておらず、今後の見通しも立てられない」（農畜産水産物卸売業）

#### 【サービス業】

「スキーシーズンのため、インバウンドの来店が多いほか、歓送迎会の予約も好調である。当店のキャパシティを超える

需要があり、取りこぼしが発生してしまふことが悔しい」（飲食店）  
「売上は増加しているが、電気代や労務費の高騰が継続しているほか、リネンの価格が6割ほど上昇し、対応に苦慮している」（宿泊業）

### 全国・産業別業況DIの推移

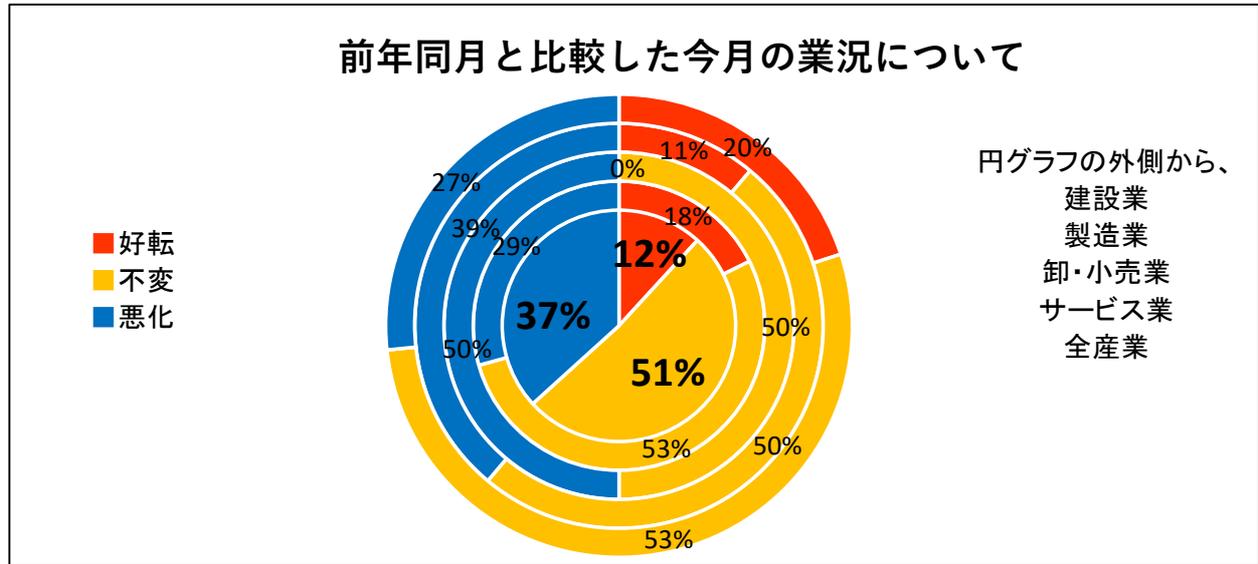
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲17.2	▲11.8	▲22.0	▲26.1	▲24.1	▲6.9
11月	▲16.3	▲12.6	▲20.4	▲19.0	▲23.2	▲8.5
12月	▲14.4	▲11.3	▲21.4	▲17.5	▲20.2	▲3.4
1月	▲15.4	▲10.6	▲20.7	▲17.2	▲19.7	▲9.4
2月	▲20.5	▲16.7	▲25.0	▲19.5	▲28.5	▲130
3月	▲19.2	▲15.6	▲24.7	▲17.6	▲23.1	▲13.9
見通し	▲16.1	▲17.2	▲17.6	▲18.9	▲19.4	▲10.0

# 令和7年（2025年）3月の動向

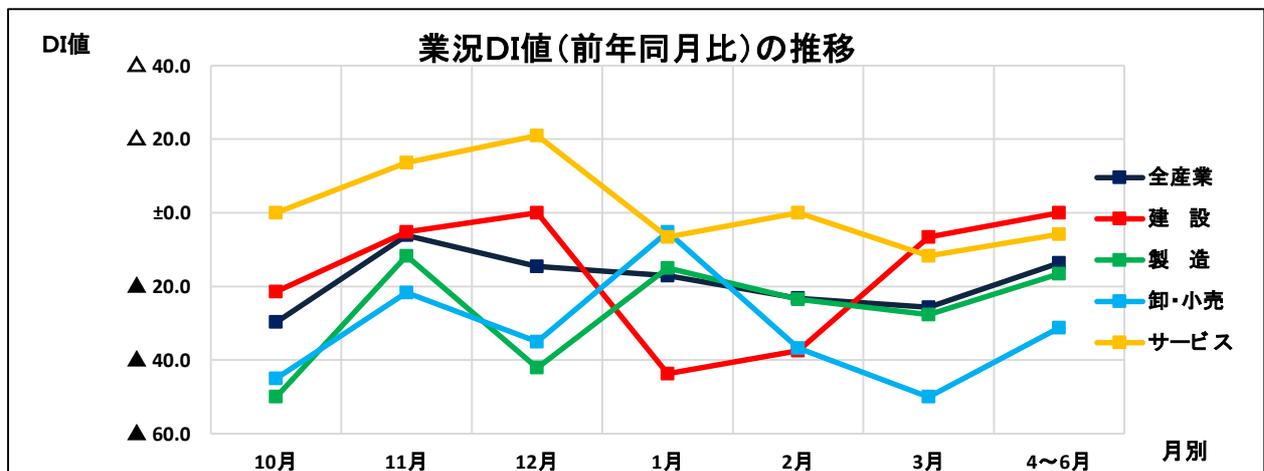
## 【業況について】

- 3月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲25.7（前月水準▲23.2）となり、マイナス幅が2.5ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（4月から6月）の先行き見通しについては、全産業では、▲13.6（前月水準▲16.4）となり、マイナス幅が2.8ポイント縮小した。



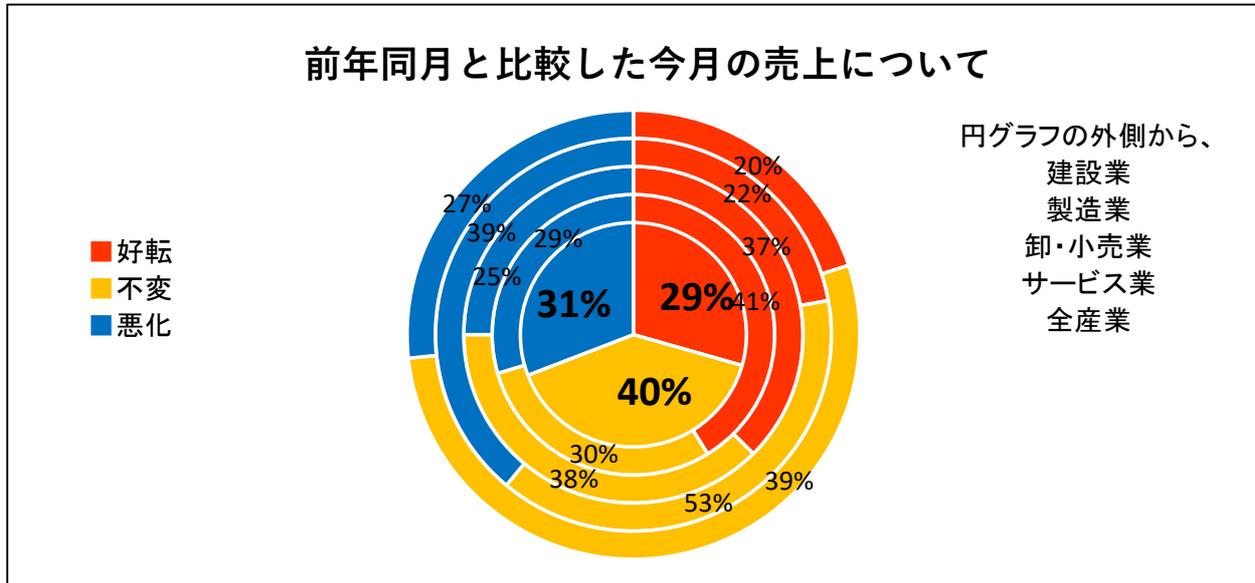
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年			令和7年			先行き見通し	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~6月	(3~5月)
全産業	▲29.7	▲6.1	▲14.6	▲17.1	▲23.2	▲25.7	▲13.6	(▲16.4)
建設	▲21.4	▲5.2	±0.0	▲43.7	▲37.5	▲6.6	±0.0	(▲12.5)
製造	▲50.0	▲11.7	▲42.1	▲15.0	▲23.5	▲27.7	▲16.6	(▲29.4)
卸・小売	▲45.0	▲21.7	▲35.0	▲5.2	▲36.8	▲50.0	▲31.2	(▲36.8)
サービス	±0.0	△13.6	△21.0	▲6.6	±0.0	▲11.7	▲5.8	(△9.5)



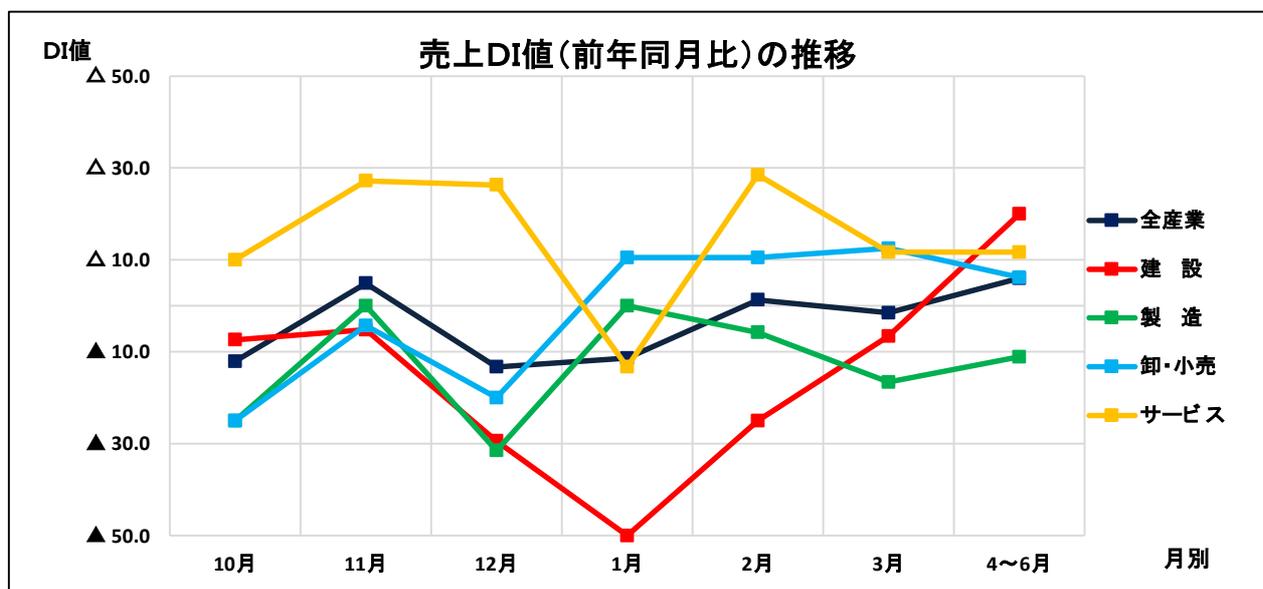
【売上について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.5(前月水準△1.3)となり、マイナス幅2.8ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△6.0(前月水準△0.0)となり、プラス幅が6.0ポイント拡大した。



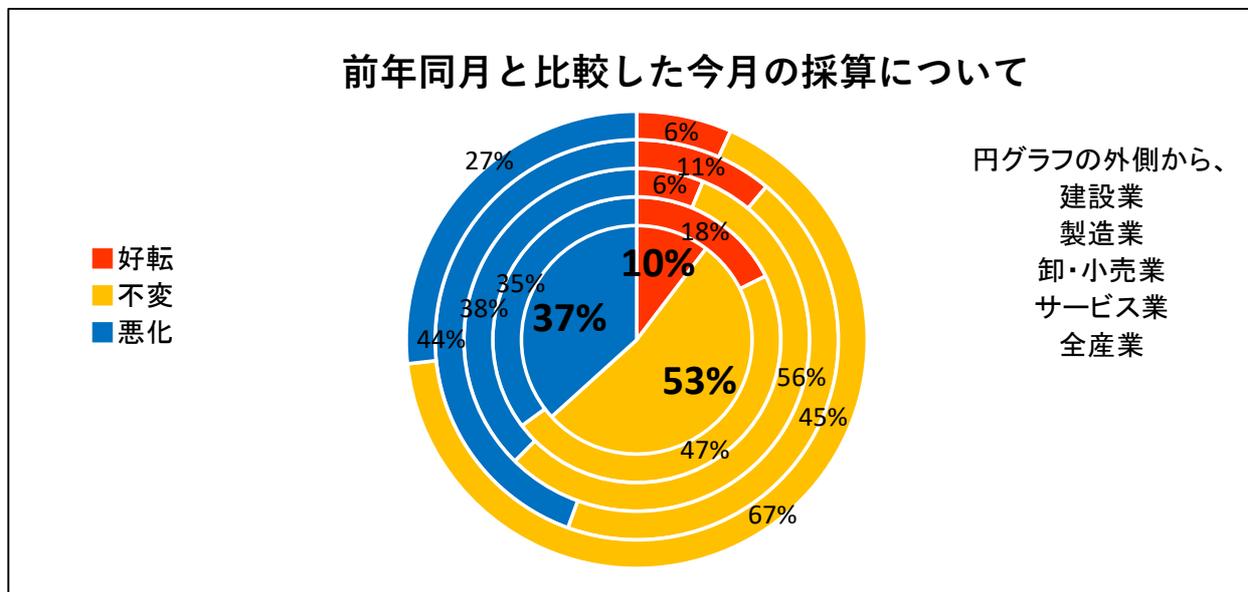
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和6年			令和7年			先行き見通し	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~6月	(3~5月)
全産業	▲12.1	△4.9	▲13.3	▲11.4	△1.3	▲1.5	△6.0	(±0.0)
建設	▲7.4	▲5.2	▲29.4	▲50.0	▲25.0	▲6.6	△20.0	(▲6.2)
製造	▲25.0	±0.0	▲31.5	±0.0	▲5.8	▲16.6	▲11.1	(▲29.4)
卸・小売	▲25.0	▲4.3	▲20.0	△10.5	△10.5	△12.5	△6.2	(▲5.2)
サービス	△10.0	△27.2	△26.3	▲13.3	△28.5	△11.7	△11.7	(△33.3)



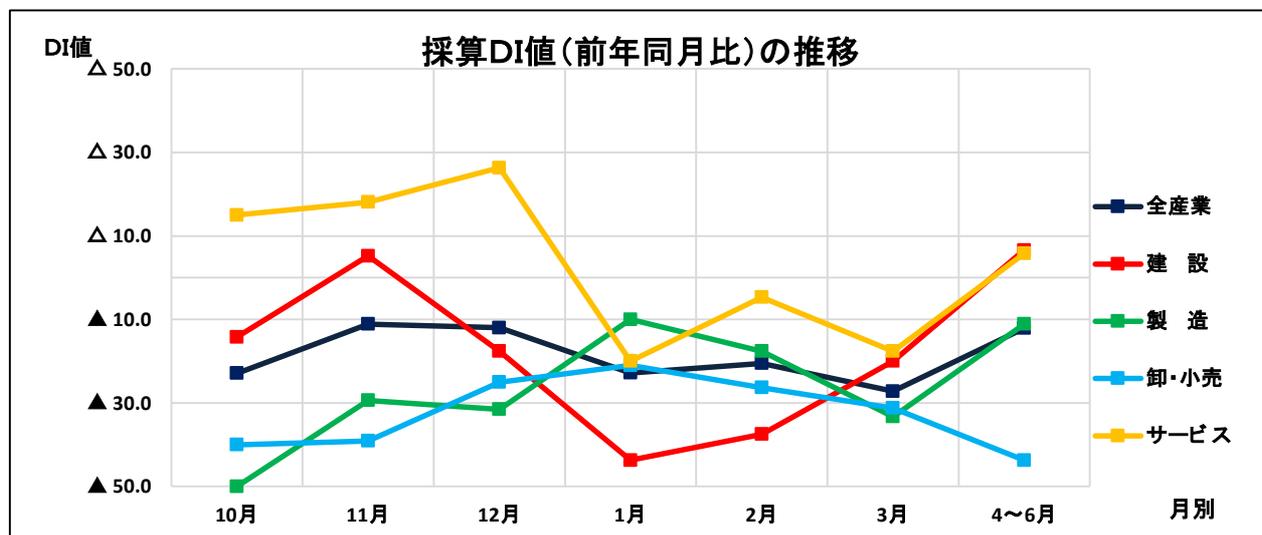
【採算について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.2(前月水準▲20.5)となり、マイナス幅が6.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.1(前月水準▲9.5)であり、マイナス幅が2.6ポイント拡大する見通しである。



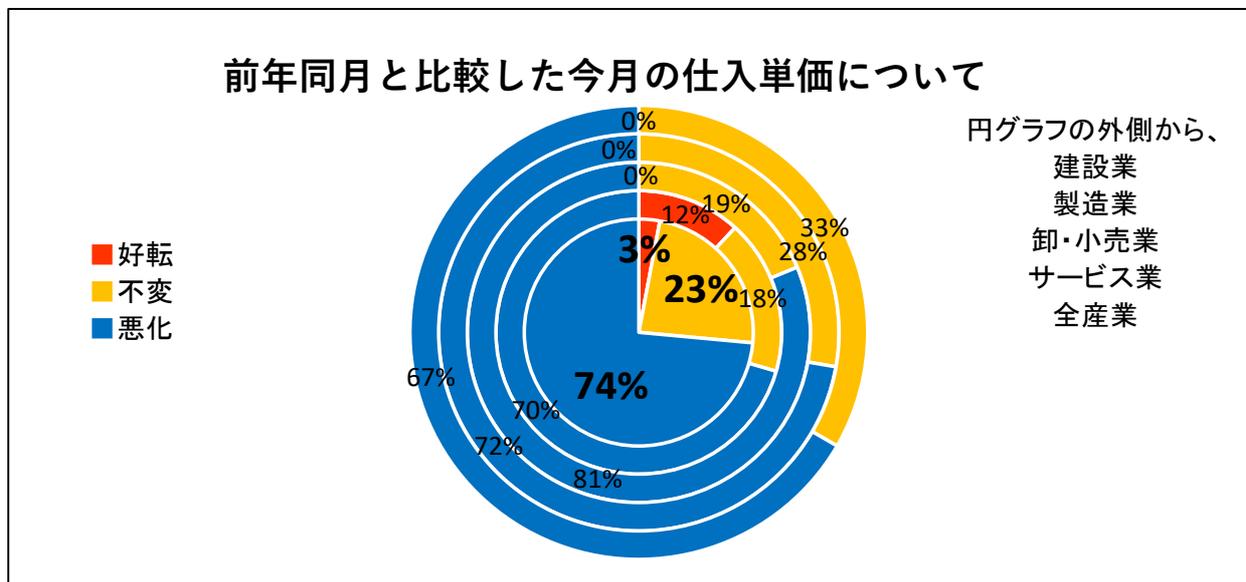
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年			令和7年			先行き見通し	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~6月	(3~5月)
全産業	▲22.9	▲11.1	▲12.0	▲22.8	▲20.5	▲27.2	▲12.1	(▲9.5)
建設	▲14.2	△5.2	▲17.6	▲43.7	▲37.5	▲20.0	△6.6	(▲18.7)
製造	▲50.0	▲29.4	▲31.5	▲10.0	▲17.6	▲33.3	▲11.1	(▲23.5)
卸・小売	▲40.0	▲39.1	▲25.0	▲21.0	▲26.3	▲31.2	▲43.7	(▲31.5)
サービス	△15.0	△18.1	△26.3	▲20.0	▲4.7	▲17.6	△5.8	(△28.5)



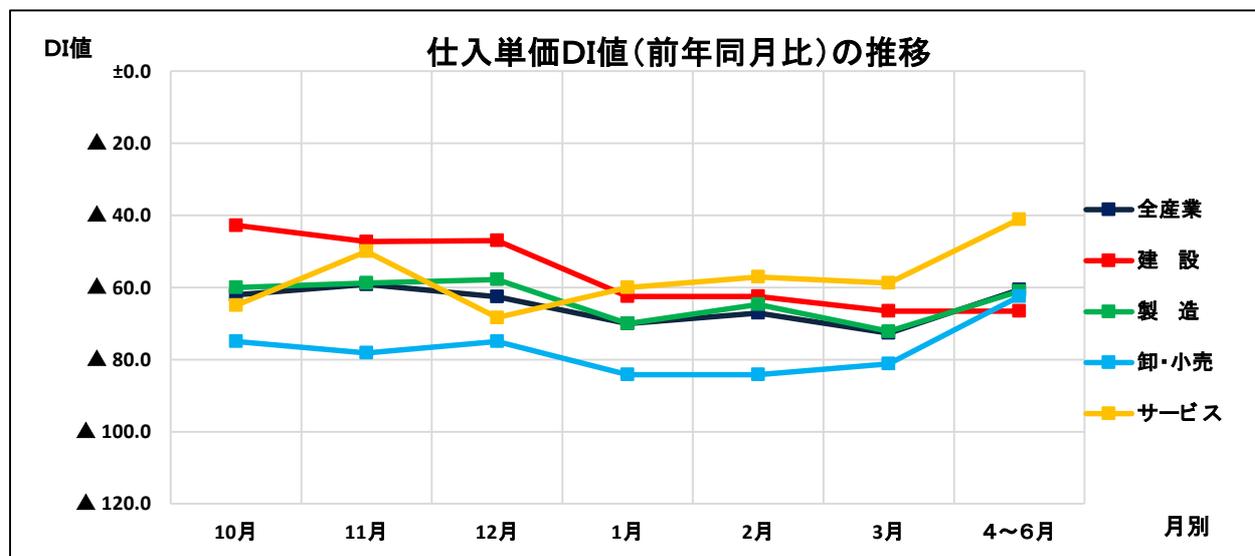
【仕入単価について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲72.7(前月水準▲67.1)となり、マイナス幅が5.6ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲60.6(前月水準▲63.0)となり、マイナス幅が2.4ポイント縮小する見通しである。



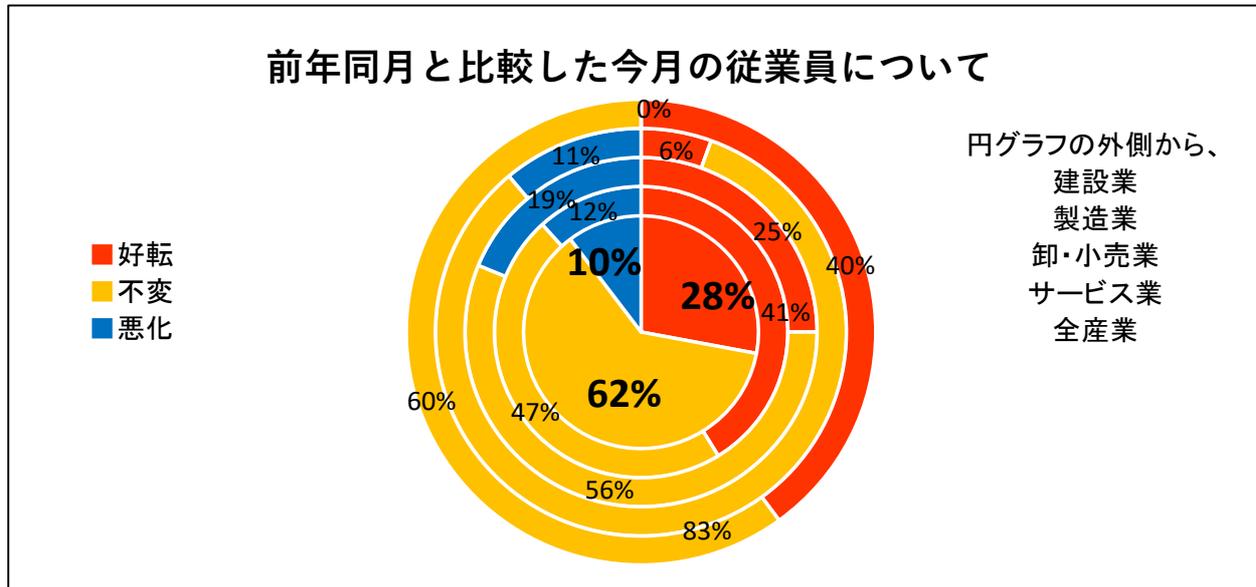
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和6年			令和7年			先行き見通し	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~6月 ( )	3~5月 ( )
全産業	▲62.1	▲59.2	▲62.6	▲70.0	▲67.1	▲72.7	▲60.6 ( )	▲63.0 ( )
建設	▲42.8	▲47.3	▲47.0	▲62.5	▲62.5	▲66.6	▲66.6 ( )	▲68.7 ( )
製造	▲60.0	▲58.8	▲57.8	▲70.0	▲64.7	▲72.2	▲61.1 ( )	▲52.9 ( )
卸・小売	▲75.0	▲78.2	▲75.0	▲84.2	▲84.2	▲81.2	▲62.5 ( )	▲78.9 ( )
サービス	▲65.0	▲50.0	▲68.4	▲60.0	▲57.1	▲58.8	▲41.1 ( )	▲52.3 ( )



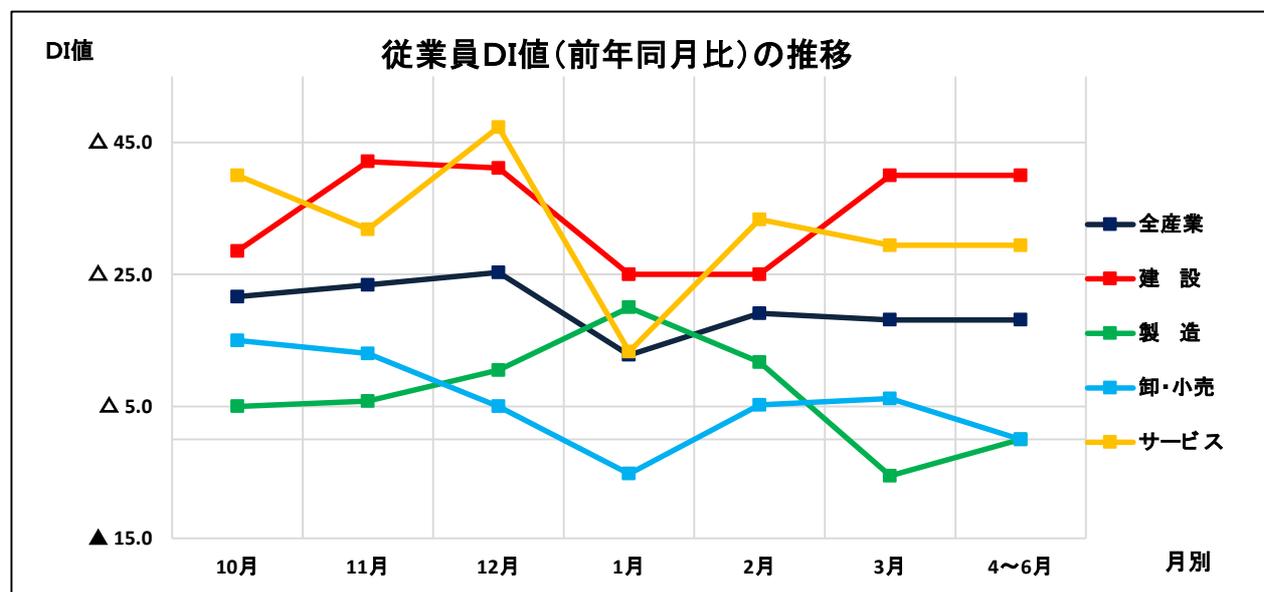
【従業員について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△18.1(前月水準△19.1)となり、プラス幅が1.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△18.1(前月水準△20.5)となり、プラス幅が2.4ポイント縮小する見通しである。



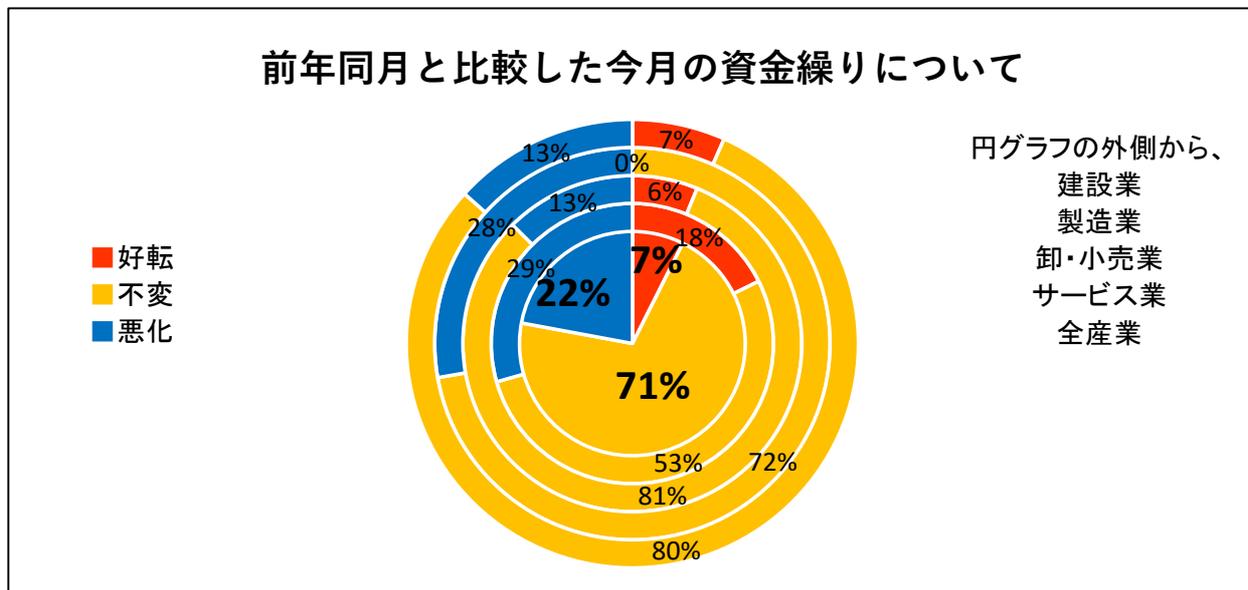
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和6年			令和7年			先行き見通し	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~6月	(3~5月)
全産業	△21.6	△23.4	△25.3	△12.8	△19.1	△18.1	△18.1	(△20.5)
建設	△28.5	△42.1	△41.1	△25.0	△25.0	△40.0	△40.0	(△50.0)
製造	△5.0	△5.8	△10.5	△20.0	△11.7	▲5.5	±0.0	(△5.8)
卸・小売	△15.0	△13.0	△5.0	▲5.2	△5.2	△6.2	±0.0	(±0.0)
サービス	△40.0	△31.8	△47.3	△13.3	△33.3	△29.4	△29.4	(△28.5)



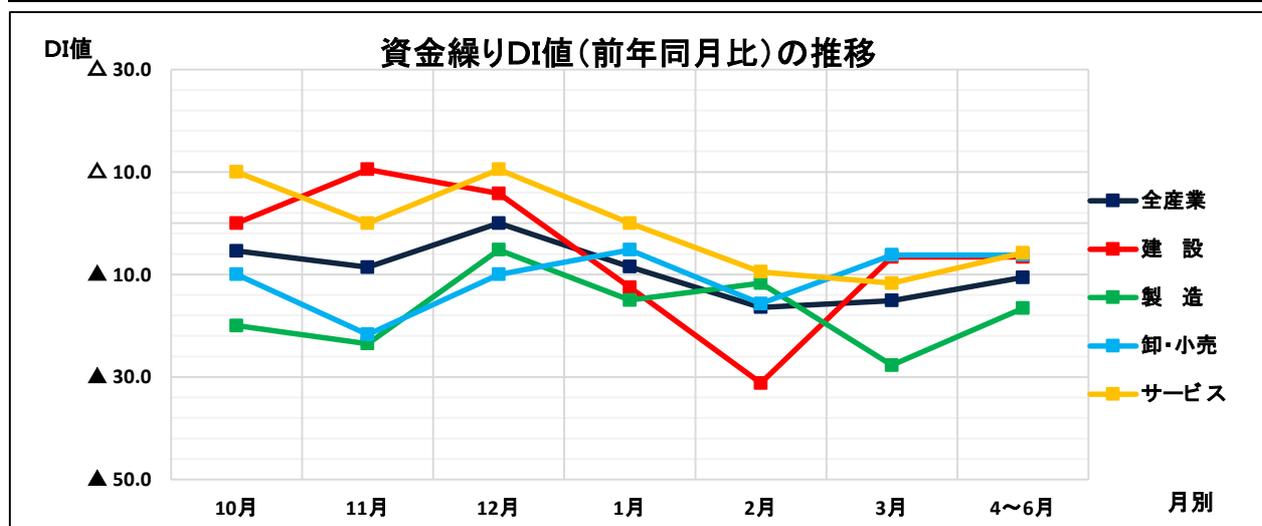
【資金繰りについて】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.1(前月水準▲16.4)となり、マイナス幅が1.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.6(前月水準▲12.3)となり、マイナス幅が1.7ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年			令和7年			先行き見通し	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~6月	(3~5月)
全産業	▲5.4	▲8.6	±0.0	▲8.5	▲16.4	▲15.1	▲10.6	(▲12.3)
建設	±0.0	△10.5	△5.8	▲12.5	▲31.2	▲6.6	▲6.6	(▲12.5)
製造	▲20.0	▲23.5	▲5.2	▲15.0	▲11.7	▲27.7	▲16.6	(▲23.5)
卸・小売	▲10.0	▲21.7	▲10.0	▲5.2	▲15.7	▲6.2	▲6.2	(▲26.3)
サービス	△10.0	±0.0	△10.5	±0.0	▲9.5	▲11.7	▲5.8	(△9.5)

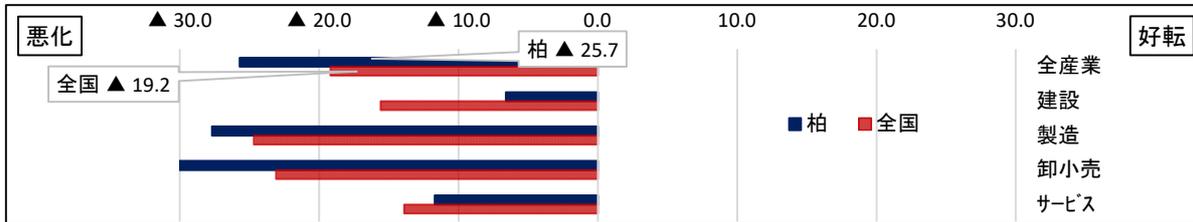


# 全国（CCI-LOBO）との比較

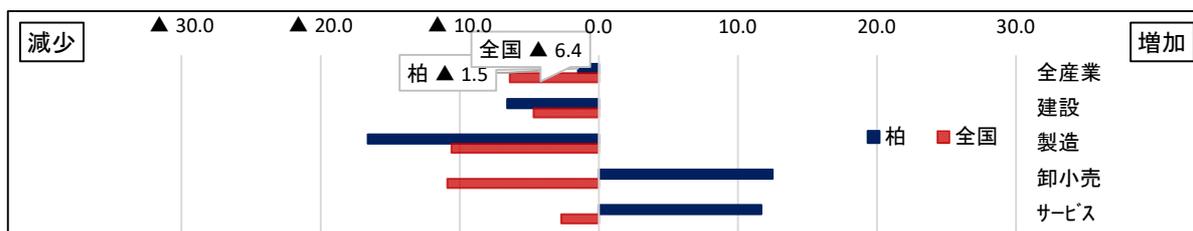
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

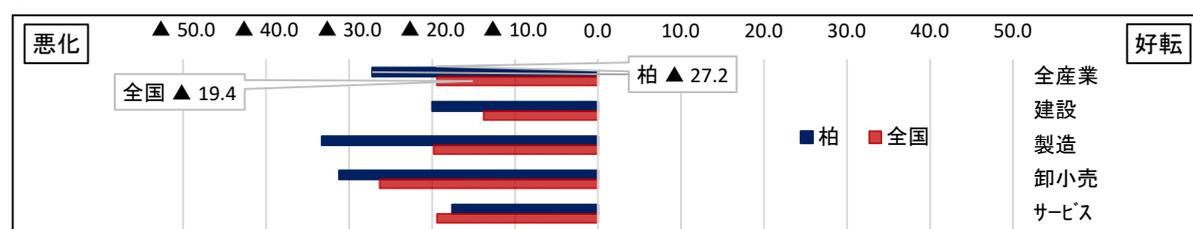
### 【業況D I】



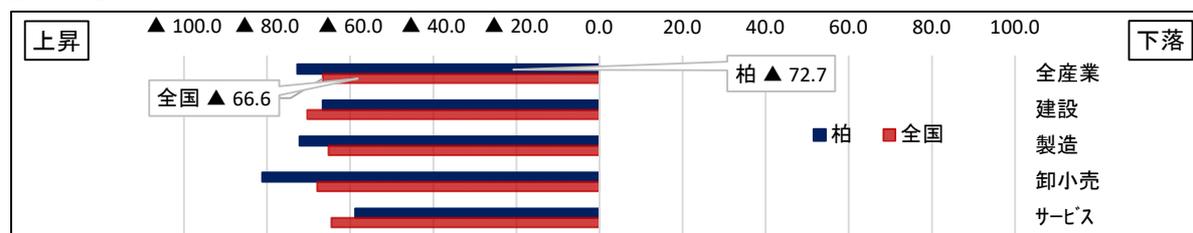
### 【売上D I】



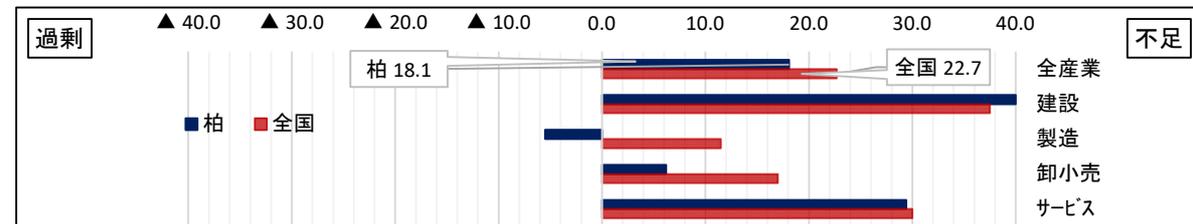
### 【採算D I】



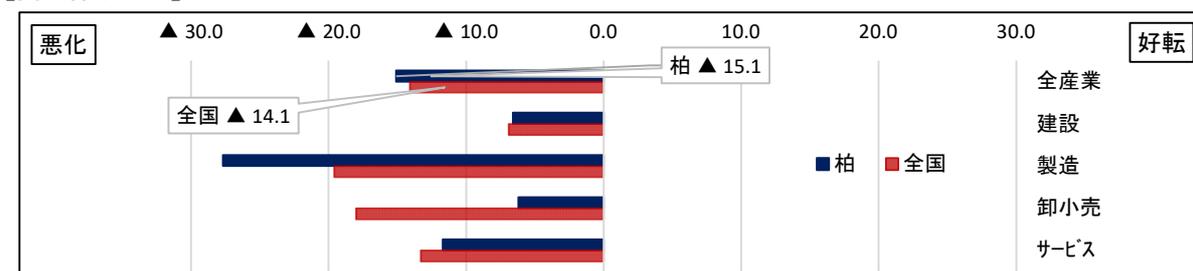
### 【仕入単価D I】



### 【従業員D I】



### 【資金繰りD I】



## 【業種別】業界内トピックス

業種別	概況	業種
建設業	若い社員の働き方改革が定着しつつあり、残業・休日出勤等は難しくなった。	一般土木建築工事業
	トランプ政権になってから関税の発動が始まりだすことで経済の動向は大きな変化が起こることが予測される。日本経済にどのような影響が出るかはわかりませんが、マイナス傾向に進むのは予測はできる。その影響がどれほど大きくなるかだが、大企業に与える影響により中小企業への影響は少し遅れて大きな波となってくると考えている。コロナ明けでもいまだに続く便乗値上げにより資材の高騰はまだまだ止まらない。加速的なインフレが続く消費者は所得とインフレの速度のアンバランスにこの先の心配をする人が多い。ただ、何かにつけ頑張っている人から税金というカツアゲで搾取しておきながら、仕事をしていない人に大半のお金を使われることはもう限界にきている。いまこそ日本人の日本人による日本のための経済活動ができる日本の法律を作る時だと考えます。外国籍への補助、難民、援助、外国籍の企業への対応、土地購入は早急に考えないと日本国は滅びます。。。	塗装工事業
	人手不足の対策として、口コミで若年層を長年募集していたところ、3月から豊工場で働いてくれる人が！長く続いてくれる事を願います。	豊工事請負・豊製造販売業
製造業	化粧品容器医療品容器共に受注減が続き回復傾向が見られない。一部スキンケアの部分で受注増もあるが売り上げの穴埋めにはならない。	プラスチック加工
	最近またコストダウン要請をしてくる顧客があり困っている。賃上げによる人件費の確保を値上げで補うしかないところにこれはちょっとないと思う。下請け法で守られる立場であればよいが、顧客が当社より小規模の場合はどこにも訴えられない。資本金の大きさだけで適用される法律が変化するのはいかなものかと考えている。	その他の金属製品製造業
	受注量減少によりパート職契約更新が時間減(日数減)となった。次回の更新時にはもとに戻せるよう全社一丸となって利益を上げることに注力していかなければならない。	金属製品
	今年度に入って人材不足の為、ハロワークだけでなく求人広告等、コストをかけて年間通して募集しているが、職種によっては応募が殆ど無く、困っている。特に営業関連の仕事には高年齢の人の応募は時々あるが、若い人の応募は全くと言っていいほど無い。人材育成には時間がかかるので、若い人材が不可欠だが、今後、応募がないとなれば、ビジネスモデルそのものを変えていかないと会社が成り立たなくなる恐れがある。	自動車・同附属品製造業
	・請負単価の値上げ交渉が進んでいる。 ・昨春に続き、今春も高い水準での人件費の引き上げを図る。 ・輸出が昨年同期比で増加の方向に転じ始めた。	酒類製造業
	主力製品の売上はコロナ前に比べまだまだだが、徐々に持ち直した感はある。ただ、諸々の経費等UPにより利益率は悪い 今後は人材確保のため新卒・中途の採用・育成に注力していく	その他の鉄鋼業
	エネルギー、素材の上昇・賃金の上昇などでコストアップ要因が多く発生している。 アメリカの関税政策で先行きの不透明性が大きくなっている。	一般産業用機械・装置製造業

## 【業種別】 業界内トピックス

卸・小売業	<p>人件費、商品原価、配送料といったコストプッシュ型のインフレは継続しており、本年は昨年より多くの製造メーカーが値上げを表明している状態で、世の中の人件費の上昇が追い付かず可処分所得が目減りする中、厳しい経営状態が続いている。</p> <p>社内的には昨年同様の人件費上昇を計画している中、春の移動に伴う退職者の補充が進んでいないので、1人当りのコストパフォーマンスを上げる効率改革に進んでいる。</p> <p>生活必需品の食品や衛生・医薬品は堅調な状況であるが、これは柏市が人口増加地域にあるからである。</p> <p>衣料品や生活雑貨は依然厳しい状況が続くと予測される。</p> <p>売上は微増するが、利益は昨年を維持する程度でコスト上昇分の吸収は厳しい。</p>	大型小売店
	*また食品関連値上げの報道。小売り全般買い控えの傾向が見られる。	その他の各種商品小売業
サービス業	今後も維持管理コストの上昇することを前提に収支のバランスを注視し改善していきたい。	不動産賃貸・管理業
	金利が上昇している為、買い顧客からの問い合わせ減ってきている。また、資材、人件費、運送費の上昇により建築費が上がっている。全体的に市場動向は良くない。	不動産管理業
	降雪や強風などの天候要因により売上が減少。客単価は上昇している。仕入や消耗品価格の高騰に加え賃上げの影響により採算は悪化。	ゴルフ練習場
	都内の大手塾が柏市に出店攻勢をかけてきたため、従業員の賃金上昇分を新年度の授業料に転嫁できなかった。この数年は資金繰りが厳しくなることが予想されるため、早めに商工会議所に融資の相談に行くつもり。	学習塾
	サービス業の人手不足はより一層顕著になり、今後の売上にも影響が出る	日本料理
	材料費、燃料費の上昇によりコスト増は継続しているが、当面の売上見込みとしては好転が予想されている。ただし、好転傾向の継続性に不透明間はある。大規模地震等への防災意識がさらに高まれば、防災関連事業の投資も期待される。	地質調査・地質コンサルタント

# 調査要領

回答期間

令和7年3月19日 ~ 令和7年4月3日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	66	38.2%
建設	38	15	39.5%
製造	44	18	40.9%
卸・小売	46	16	34.8%
サービス	45	17	37.8%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				